

岩石・鉱物標本用小箱の自作のすすめ

著者	高島 勝
雑誌名	静岡地学
巻	10
ページ	18-18
発行年	1967-10-26
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00026066

岩石・鉱物標本用小箱の自作のすすめ

高 島 勝

最近団体でも個人的にも野外観察や採集がよく行なわれるようになった。こうした傾向は大変に喜ばしいことであると思っている。このような時、欲ばりな筆者はあれもこれもと思い、1日でリックサックへいっぱいになるくらいの岩石や鉱物を採集してしまう。採集が度重なると、もちかえったこれらの量は相当になり、整理しないと理科準備室等の管理上あるいは後日の調査・観察の上からも甚だ困ることになる。いたずらに運んでも瓦礫の山とするだけでは意味があまりない。

そこで標本用小箱がどうしても必要になる。市販のもの(9×7.5×1.5 cm)は1個で30~40円位であるが、何百個となると大変な金額になる。財政のよい学校等ではこうした市販の小箱を購入すればよいわけであるが、数を多く必要とするだけに金銭的になかなか大変な学校が多いのではないかと思う。

筆者は数年前から小箱作りをしている。自作といってもすべてをつくるのではない。小箱は丈夫さからいうとボール紙より板の方がすぐれているのは勿論であるが、板では大変なので、折箱に着目して、これをつくる市内の業者に相談し、箱だけつくってもらっている。まわりの枠の部分にボンド(最近のボンドは減多にとれることはない)でつければ、それだけでも相当に丈夫な箱になるが、体裁もあるので、これに適当な紙をのりではる。紙をはるのが大変な仕事であるが、クラブ員や時には全校生徒の協力を得れば、数百個数千個は容易に出来上がる。なお、紙の質や色、寸法等も業者に相談すれば一定のものを揃えてくれる。

小箱1個の費用は(大きさ11×9×1.5 cm)折箱3円、紙(3種類)2円、計5円である。のりは洋和裁用の桜のり(1袋10円)を水で若干うすめてつかうのが実用的で1袋で60個位ははることができる。これは昭和38年の価格であるから、以後若干の値上がりがあると思うが、注文数によっても変わるので、地区や適当なブロックでまとめて、折箱の製作業者に相談するのが安価にする何よりの得策であると思う。

こうしてつくった小箱に岩石や鉱物を入れ、この小箱が適当数まとめてはいる木箱(自作すれば130円位)をこしらえ、棚等に格納しておけば大変によいのではないかと思う。

(三島市立北中学校)